

				科目コード*	118
科目名	助産学実習Ⅱ (Clinical Practice in MidwiferyⅡ)			選択区分	必修
単位数	8単位	時間数	360時間	学期	通年
担当教員	今村 朋子、井上 明子、伊藤 美香、山本 美由紀、 小嶋 理恵子			区分	助産学実践領域
実習目的	マタニティーサイクルの助産過程や分娩介助技術などの正常経過の助産実践に加え、救急対応やハイリスク事例のケアなど正常逸脱時の助産実践について、助産師としての知識・技術・態度を統合し、母子や家族を中心に継続的に寄り添う能力を養う。さらに、施設の特性をふまえた助産管理を理解するとともに、助産師の役割と責任について発展的に考える能力を養う。				
実習目標	1 正常な経過をたどる母子と家族に対する助産実践を行うことができる。 2 正常から逸脱した経過をたどる母子と家族への助産実践について理解できる。 3 施設の特性をふまえた助産管理の実践について理解できる。				

実習内容	
<p>1. 実習期間 以下の期間について実習要綱に記載する。</p> <p>1) 病院継続事例の妊娠期ケア実習期間 2) 集中実習期間 3) 補習実習期間 4) 病院継続事例の育児期ケア実習期間</p> <p>2. 実習時間 病院実習は原則として、8:00~16:00とする 分娩期実習は24時間の待機制で行う</p> <p>3. 実習場所 1) 基本的に、助産学実習Ⅰと同施設の産科外来・病棟で実習を行う 上記施設以外にクリニック等の補助機関において実習を行う場合がある。 2) 事例の状況に応じて、上記以外にも手術室や小児科外来などの関連部門を実習場所に含む 3) ハイリスクケア実習については、実習Ⅰの施設以外に、以下の施設でも実習を行う場合がある。 愛媛県立中央病院（総合周産期母子医療センター 産科部門・新生児部門）及び他の実習施設 4) 家庭訪問については、病院継続事例の家庭に出向いて実習を行う 5) 育児期の地域実習については、継続事例の居住地域の中で対象に適した外出場所を選択する</p> <p>4. 実習の展開 詳細は実習要綱を参照</p>	
成績評価方法	実習評価表（100点）の項目について、実習内容および到達度、実習態度を点数化し評価する。
教科書	
参考図書等	
備考	